

第4回

「アート de マルシェ」

特設マルシェ（市場）で和紙やビーズなどさまざまな素材を使ってそれぞれ作品を作り、みんなの作品を組み合わせるオリジナルの物語を作りました。



第5回

「レッツ!スケッチ!キモチのカタチ!」

大きな画用紙に自分の気持ちを表現した等身大の形を描き、さまざまな描き方でペイントし、最後に全ての作品をつなぎ合わせて一つの大きな作品を制作しました。



関連

「アート・ピクニック」

海岸で虹色にペイントされた石で水切りをして楽しんだり、赤崎小に戻ってからは、校舎に展示してあるこれまでのワークショップで制作してきた作品の鑑賞会を行いました。最後に、繭玉の中に全員入り、そこから新しい命が生まれるという意味を込めて1人ずつ勢いよく飛び出しました。



今回のプロジェクトを行うにあたり、さまざまな企画立案を持ちかけたのがAKASAKI海想日誌実行委員会。旧赤崎小学校卒業生の宮嶋弘行さん（実行委員長）をはじめとする総勢6人の実行委員が中心になって行われました。企画段階で地域と意見の食い違いもあり、大変な苦勞もあったそうです。しかし、旧赤崎小学校をもっと盛り上げたいという強い思いがこの企画を成功へと導きました。

これこそ住民参加型の醍醐味

5月から10月まで毎月1回行われたAKASAKI海想日誌には毎回約30人の子どもや大人が参加しました。卒業生や赤崎地区の人をはじめ、町内外から多くの人に参加して、みんなでひとつのことをやり遂げることの楽しさを実感してもらえたことと思います。

この企画を振り返り、実行委員長の宮嶋さんは「この企画を行ったことで町内だけでなく、さまざまな地域の人に赤崎のことを知ってもらえたことと思います。何も行動を起こさなければ、その地域や人のことは誰にも気付いてもらえません。まずは行動してみることが大切だと感じました。また、この住民参加型プロジェクトを行ったことで住民と行政との距離も縮まったように思います。今後さまざまな企画を行うことで、住民と行政との距離が縮まればと思っています。」と語っておられました。

AKASAKI 海想

住民参画型現代

